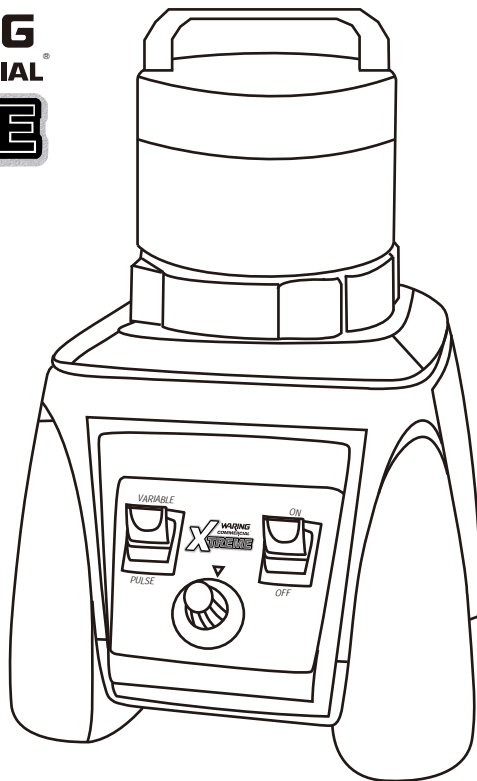
Hi-Power BLENDER
MX1200XTM
取扱説明書

Waring Hi-Power Blender

エキストリーム

この度は WARING 社 Hi-Power Blender エキストリームをご購入頂き、 誠にありがとうございました。 本機は実験、 研究用の強力な高速粉砕機です。　本機を正しく事故のないようお使い頂く為に、 ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読み下さいますようお願い致します。

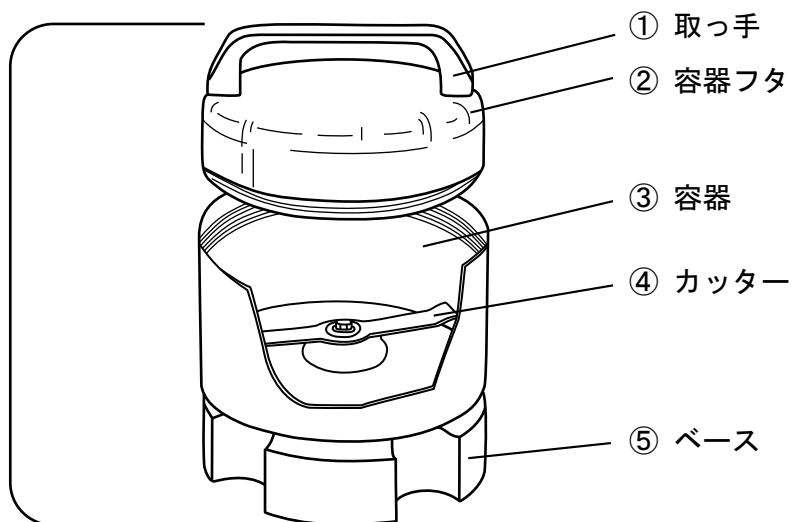
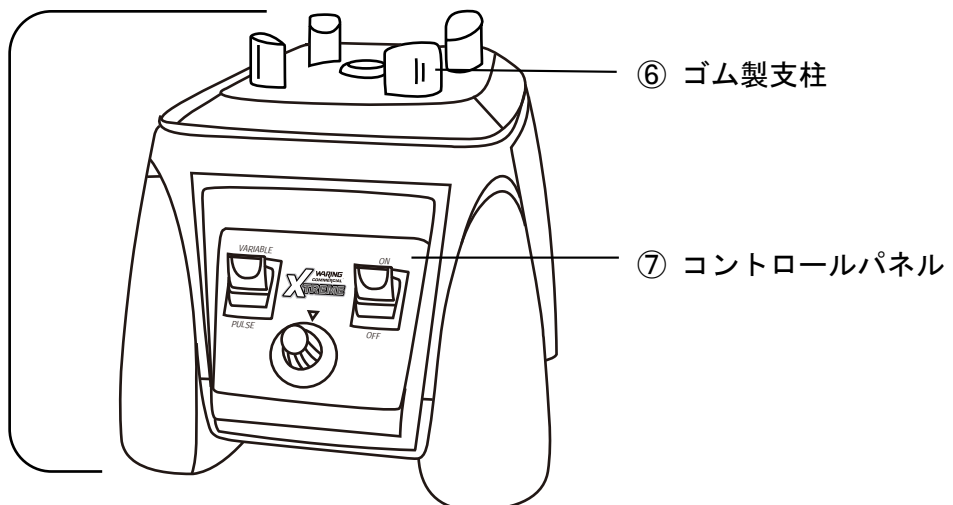
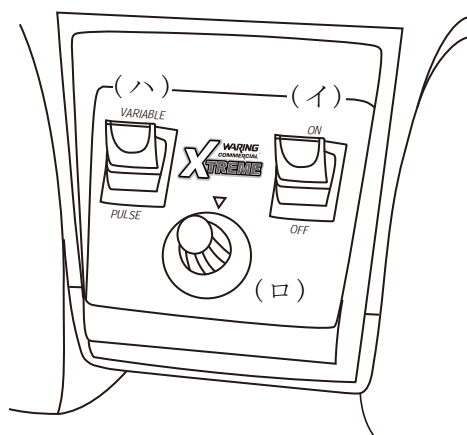



図 −B

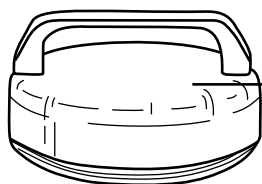
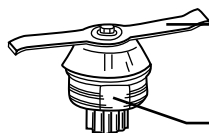
⑦ ［コントロールパネル］

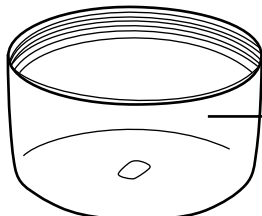
（イ）ON/OFF メインスイッチ

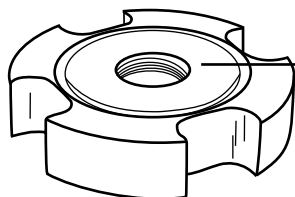
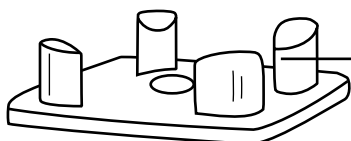
（ロ）スピードコントロールダイアル

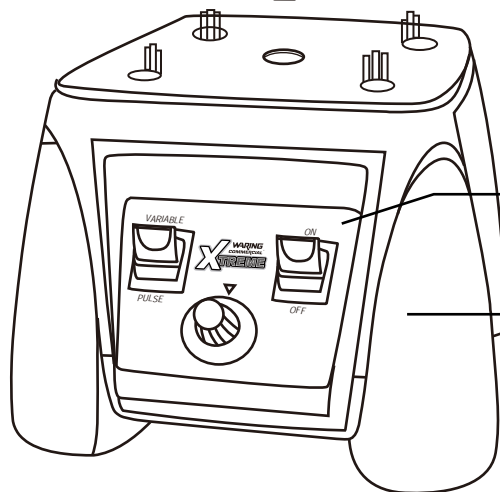
（ハ）VARIABLE/PULSE スイッチ

操作

1. 図 −B より メインスイッチのスイッチ（イ）が OFF の位置にあるのを確認して下さい。
   もしスイッチが ON の位置にあるのなら、OFF の位置に戻しておいて下さい。
2. スピードコントロールダイアル（ロ）の 1 の数字を▼印の所に戻しておいて下さい。
3. 図 −A より容器セット (A) をパワーユニット (B) から外して下さい。そして容器セットから
   容器フタ②を左（逆時計回り）に廻し、容器フタを外します。
4. 容器③によく乾燥させた試料を入れて下さい。試料量は最大 150mL までにして下さい。
5. 試料を入れ終わったら、容器フタをセットし、しっかりと締めて下さい。
6. セットし終えた容器セットをパワーユニットの 4 つのゴム製支柱⑥にきっちりとベースの
   4 つの切り込み溝が全て入るようにセットして下さい。
7. パワーユニットに容器セットがセットし終わったら、電源コードのプラグを 100V のコン
   セントに差し込んで下さい。（その際必ずアースをお取り下さい。）
8. コントロールパネル⑦の ON/OFF メインスイッチ（イ）を ON にして稼働します。スピード
   調節ダイアル（ロ）を 1 から徐々に上げていき希望の速度で粉砕して下さい。
9. 試料を瞬時に粉砕したり、ダイアル 10 まで回転速度を上げて粉砕したが、物足りない
   場合は VARIABLE/PULSE スイッチ（ハ）を下に押すと最高速度の 24,000rpm が得られ
   試料の粒度をより細かく、また粉砕速度を速めます。
10. 機械の作動中は容器フタに軽く手を添えて下さい。粉砕中の状況が手のひらを通して
    伝わってきます。
11. 粉砕作業が終わったら、メインスイッチを OFF にして機械をストップします。
12. 機械が完全に止まったら、コンセントから電源コードのプラグを外します。そしてパワー
    ユニットから容器セットを取り外します。
13. 容器セットの容器フタを外し、容器の中の粉砕された試料を適当な器に移し替えて下さい。

図 -C　各部の名称と働き

① 容器フタ：
フタはステンレス製 (SUS304) です。フタの内側に大、 小のコブがあります。 カッターで撹拌された試料が高速でこのコブにぶち当たり砕けます。

② カッター：
ステンレス製 (SUS304) です。 厚さ 2mm のストレート刃です。

③ カッターアッセンブリー：
長時間連続運転してもビクともしない高性能のボールベアリングを使用しています。（ カッター付 ）

④ 容器：
ステンレス製 (SUS304) です。 厚さ 3mm も有り、 使用して安心感があります。

⑤ ベースガスケット：
容器とベースの間のクッションです。

⑥ ベース：
アルミダイキャスト製です。 ベースセンターにはカッターアッセンブリーのネジに合うネジ切りが施してあります。

⑦ ゴム製支柱：
容器セットをモーターベースに固定させます。 又、 運転中の音を吸収し、 音をやわらかくします。

⑧ ドライブソケット：
モーターベースとカッターアッセンブリーを接続します。

⑨ コントロールパネル：
前ページコントロールパネル (2 ページ図 -B 参照)

⑩ モーターベース：
長時間運転が可能なパワーユニットです。 他種類のサンプルを何度でも取り替えて運転する事が可能なタフなモーターパワーです。 このモーターには安全装置が搭載されています。 モーターがオーバーヒートするのを防ぎます。 安全装置が作動した後は、 電源を切って下さい、 15 分ほど経つとモーターは自動復帰します。 その後使用して下さい。
(場合によっては 30 分かかります。)

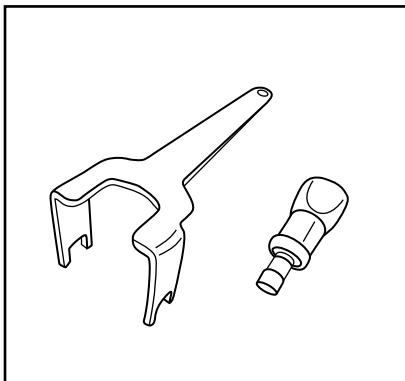
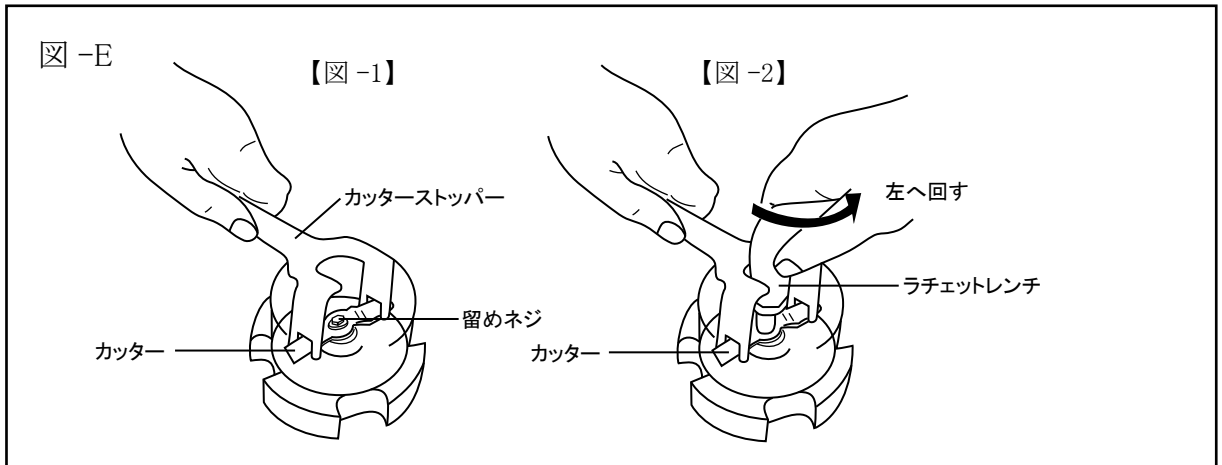
微粉砕フタの使用方法

本体セットとは別にオプションで微粉砕フタ【図 -D】があります。 この微粉砕フタは下記のような場合にご使用下さい。

- 標準フタで粉砕したがもっと細かくしたい時。(その場合、 微粉砕フタが有効性を発揮するための容量 (50mL 以下) に調整して下さい。)
- 初めから粉砕試料が細かく、 かつ容量 (50mL 以下) も少ない場合。
- 試料が少なくても、 一つの塊 (1cm 以上) が大きい場合、 まず標準フタで粉砕し、 その後微粉砕フタをご使用下さい。

カッター取り外し方

カッターを外したり、 装着したりする時は別売のカッター脱着キット (UP-50PM) を利用すると便利です。 下の【図 -1】と【図 -2】を参照して下さい。

- カッターを脱着する場合、 容器セットは必ずパワーユニットから外して、 平らなところで行って下さい。
- 下図、【図 -1】のようにカッターストッパーの両溝をカッターの両端にセットし、 カッターストッパーの柄を片手で握り、 カッターが動かないように固定しておきます。
- 次にラチェットレンチを【図 -2】のように留めネジにセットし、 ラチェットレンチを左回りに回します。 留めネジが外れたらカッターの両端を上に持ち上げてカッターを取り出して下さい。

カッター脱着キット オプション

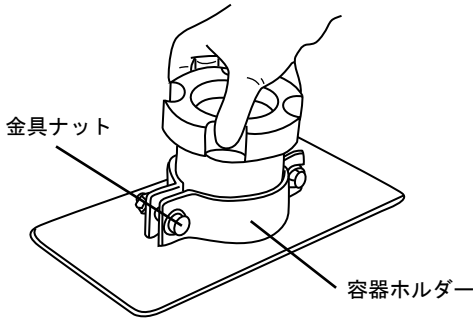
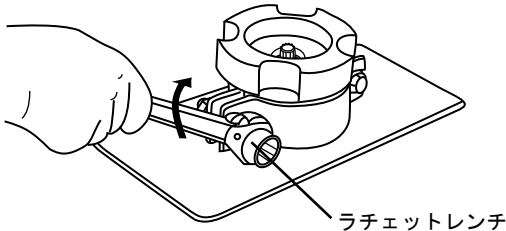
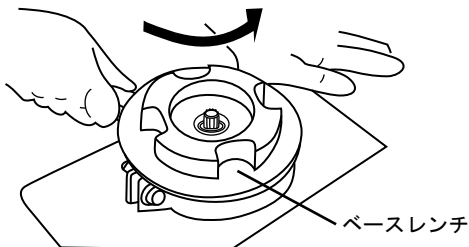
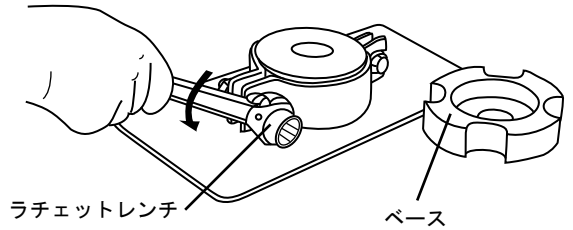
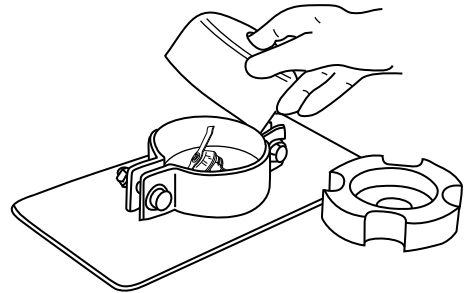
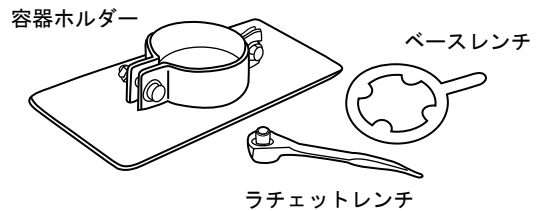
型　番	品　名	価　格
UP-50PM	150mL 容器用 カッター脱着キット	￥ 6,000

容器セットを洗浄する時、 容器の中のカッターを外しておくと掃除がスムースに、きれいに行えます。

容器の分解と洗浄

容器セットを分解や組み立てするには別売の容器分解キット(UP-51)を利用すると楽に分解したり組み立てしたりする事が出来ます。 図 -F と図 -G を参照下さい。

図 -F

1　容器セット A(1 ページ図 -A 参照) を逆さまにして容器ホルダーに入れる。

2　容器ホルダーに入れた容器を固定する為金具ナットにラチェットレンチをセットし、柄を上に持ち上げる要領で容器が動かなくなるまでナットをきつく締め込みます。

3　ベースの 4 つの窪みに 4 つの突起をはめ込み、ベースレンチのハンドルを左回しに廻し、ベースを緩めます。

4　緩めたベースを外します。ラチェットレンチを再度金具ナットにセットし、柄を下に引き下げる要領で、ナットを緩めます。

5　そして容器ホルダーから容器とカッターアセンブリーを取り出します。

型　番	品　名	価　格
UP-51	150mL 容器用 容器分解キット	¥ 30,000

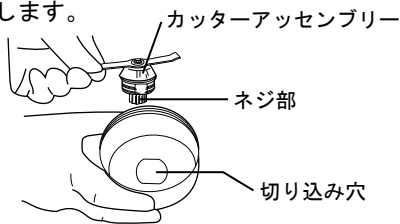
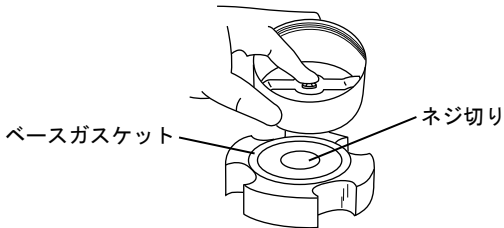
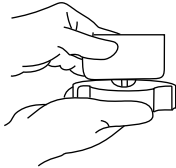
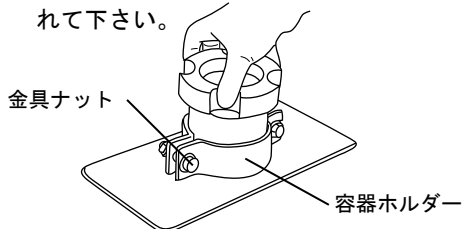
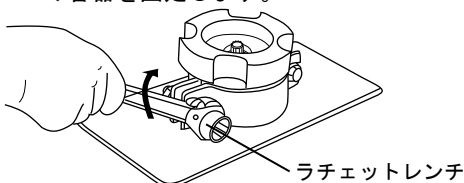
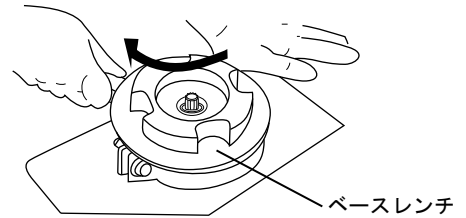
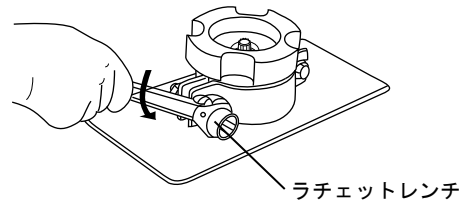
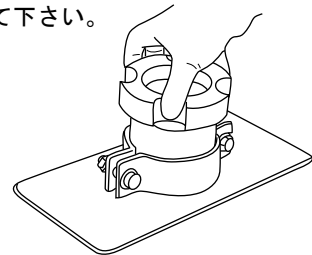
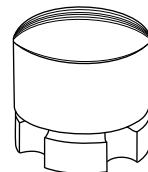
仕様

型　式	MX1200XTM
電　源	100V, 12.2A, 50/60Hz, 1000W
回転数	Variable: 1,300 ～ 18,000rpm
	Pulse: 24,000rpm
寸　法	220 X 220 X 360mm
重　量	7.0 kg (本体 : 5.5 + 容器 : 1.5 kg)
容　量	150mL ステンレス容器付

容器セットの組み立て

容器セットを組み立てます。容器、カッターアッセンブリー、ベース、ガスケットを準備して下さい。

図 -G

1 カッターアッセンブリーを容器内側の切り込み穴にネジ部が容器の外に出るようにセットします。

2 ベースガスケットをセットした、ベースの真ん中のネジ切り部を、1 でセットされたカッターアッセンブリーのネジ部に合わせてねじ込み、セットします。

3 その際、カッターアッセンブリーのネジ部にベースのネジ切りがスムースに、真っ直ぐにねじ込まれることが大切です。ねじ込みがゆがんでいたり、噛み合わせがうまくいかない場合は初めからセットし直して下さい。

4 容器とベースがカッターアッセンブリーを通して正しくセット出来たら、容器セットを逆さまにして容器ホルダーに容器部を入れて下さい。

5 容器ホルダーに入れた容器を固定する為、金具ナットにラチェットレンチをセットし、柄を上に持ち上げる要領でナットをきつく締めこみ容器を固定します。

6 容器セットのベースの 4 つの窪みに 4 つの突起をもったベースレンチをセットして、ベースレンチのハンドルを右に廻しベースをきつく締めこみます。

7 十分に真っ直ぐにスムースに締めこみが終わったら、金具ナットにラチェットレンチをセットし、柄を下に引き下げる要領で金具ナットを緩めます。

8 容器ホルダーが十分に緩んだら、ベースを持って容器セットを容器ホルダーから取り出して下さい。

9 容器とベースの間に隙間や、がたつきがなくきっちりとセットされていることを確認して下さい。その確認が終われば容器セットは使用できる状態になります。

注意事項

- ○ 本機を操作する前に電源コードのプラグがコンセントに入っていない事を、本機のパワーユニット（この取説2ページ、図-B参照）のコントロールパネルのメインスイッチ（イ）がOFF（切）になっているか確認して下さい。もしメインスイッチの位置がOFFになっていないならメインスイッチをOFFの位置に直して下さい。
- ○ 次にコントロールパネル右側のVARIABLE（スピード調整）ダイアル（ロ）を1に戻しておいて下さい。
- ○ 容器とベースはカッターアッセンブリーにしっかりとねじ込まれているどうか、手で確認して下さい。容器とベースが緩んだ状態で使用すると、非常に危険です。容器とベースが緩んでいる場合、図-G(6ページ）のようにしっかり締めつけてご使用下さい。
- ○ 容器中のカッターがしっかり固定されているかどうか、手で触って確認して下さい。カッターの締め付けが緩んでいれば、図-E(4ページ）のカッター脱着キットを使ってカッターをしっかり固定して下さい。
- ○ 容器に試料を入れる場合は容器容量の半分程度を目安として下さい。また、微粉砕フタ使用の場合は容器容量の4分の1程度で行って下さい。
- ○ 最初に投入する試料の大きさは標準フタ使用の際15mm角程度までにして下さい。それ以上の大きさの試料を粉砕する場合は予め15mm角以下に小さくしてから投入して下さい。
- ○ 本機は乾燥物専用の粉砕機です。粉砕対象物がよく乾燥したものを粉砕して下さい。粉砕時に水分が湧出するような試料は粉砕しないで下さい。
- ○ 本機は液体物の使用は出来ません。また、非常に硬い鉱石や粘性の強い試料等のご使用は出来ません。
- ○ 作動中は容器の上に手を添えて保持して下さい。手を通して粉砕状況が伝わってきます。
- ○ 作動中は容器フタを絶対開けないで下さい。
- ○ スイッチを入れると容器が異常な動きをする場合は、直ちにスイッチを切り、点検を行って下さい。（その際、本体のプラグをコンセントから外して行って下さい。）
- ○ 作動中にカッターが動かなくなったら、直ちにスイッチをOFFにし、点検を行って下さい。試料の入れすぎや試料がカッターと容器の間に挟まっている等の場合、試料を減らしたり、カッターと容器の間に挟まった物を取り除いて下さい。（その際、本体のプラグをコンセントから外して行って下さい。）
- ○ 感電の危険から身を守るために、モータユニットは水やその他の液体の中には入れないで下さい。
- ○ 決して稼働部分に触れないで下さい。
- ○ 屋外では使用しないで下さい。

安全装置（自動復帰）説明

本機エキストリームにはモーターの焼き付き故障を防ぐ為、安全装置が組み込まれています。強い負荷のかかる試料を入れたとき、カッターと容器の間に試料が挟まったり、分量が多すぎた場合等、モーターに過剰な負荷がかかった時には、過電流防止装置が働いてモーターが自動的に停止します。これは故障ではありませんので、次の作業手順に従って再スタートして下さい。

1. まず、コントロールパネル⑦のメインスイッチ（イ）をOFFにして下さい。
2. 次にコードプラグを電源コンセントから抜きます。
3. 容器セットをパワーユニットから取り外し、容器フタを外します。カッターと容器に挟まっている試料を取り除き分量が多い場合は分量を減らして下さい。
4. 15分程機械を休めます。その間この機械の自動復帰機能が働き、自動復帰します。通常通りご使用下さい。

◎上記の注意事項を怠ったりしますと、事故につながったり、満足な試料作成が出来ない場合がありますので、必ず守って下さいますようお願い申し上げます。

ラボ用輸入機材専門メーカー
大阪ケミカル株式会社

〒530-0045
大阪府大阪市北区天神西町5-17 アクティ南森町2F
TEL 06-6311-1050　FAX 06-6311-1070
E-mail:info@daichem.co.jp
http://www.daichem.co.jp